

〔観光・まちづくり分野〕
総合特別区域評価・調査検討会における評価結果

令和6年度

国際医療交流の拠点づくり 「りんくうタウン・泉佐野市域」地域
活性化総合特区

〔指定：平成23年12月、認定：平成24年3月〕

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i)、ii)の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

4.0

i)取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	国際医療交流の推進	77%	3
2	訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進	153%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 0 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 2 = 4$

4.0

※1)1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。

(例)評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2)数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii)取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii)の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

3.9

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

-

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.7

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.0

III 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見)

4.0

・観光面において、地域通訳案内士の活動件数や訪日外国人宿泊客数、あるいは訪日外国人の満足度については高い進捗度を達成しており、評価できる。つまり、観光の質については一定の水準に達していることが推測される一方で、量的な拡大が求められる。市内の宿泊需要はそれなりにあると思われるが、人手不足等によって十分稼動できず、ボトルネックになっているのであれば、何らかの工夫が求められよう。短期的な人手不足を解消できるような派遣システムや、人的サービスを軽減・代替するようなICTの活用等に向けて支援することも検討してはどうか。また、市内や近隣の宿泊施設の独自性(大阪市内のラグジュアリーホテルとの差別化)を広く発信することも有効であろう。

・過年度の評価でも指摘されているが、各分野の事業はコロナ禍で難しい状況の中一定の成果をだしているものの、医療と観光がそれぞれ個別に取り組まれている印象である。観光地づくりが医療交流を促し、国際医療拠点としてのアメニティが観光地としての魅力を高め、地域の人々の地域意識やシビックプライドを高めることができるような取組を、引き続き期待したい。

・医療分野なので領域外であるが、「国際医療交流の推進」については、実績値は低いものの経済的支援の実施を目的とした財団を設立されるなど、体制の構築を適切に進めていただいていると考える。

・「訪日外国人1人当たり観光消費額」については、円安等の影響等もあるため、観光の質の向上を判断する際には実施されたアンケート調査を基に支出先や滞在日数なども踏まえて総合的に考察いただきたい。

・評価指標(2)『訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進』について、②「訪日外国人延べ宿泊者数」を除き数値目標を1年前倒しに達成したことは大いに評価される。新型コロナ感染症の影響からの回復、ならびに円安進行などの外部要因が作用していることもあるが、周辺地域との連携の深化、イベントの開催や実施、各種媒体の活用による情報へのアクセス改善などの地道な取組が、当該地域での消費を徐々に押し上げているものと考える。

・他方で、唯一目標を下回っている「訪日外国人延べ宿泊者数」について、泉佐野市での体験型観光商品の参加者の多くが大阪市内のラグジュアリーホテルに宿泊している状況が示す通り、立地等の関係から地域の観光資源の磨き上げが滞在に即直結する訳では無い。立地的な優位性があるとすれば、関西空港からの出国の直前利用ということが想定され、その際に最後の数泊の滞在地として選ばれるような利便性、魅力の向上ということも現実的な戦略であろう。各種マーケティング調査より、セグメントを細かく設定して戦略を練っていくことが望まれる。

・評価指標(1)の各種指標について、目標達成にはいたらなかったものの前年を上回る成果を見せたことも評価に値する。高度医療については、様々な国や言語へのアプローチを行っていること、国際医療交流については新たに「りんくう医療技術国際振興財団」を設立しサポート体制を整えるなど、着実に環境整備が進んでいると感じる。また、外国人の診療受け入れにあたって地域通訳案内士が協力するという実績が生まれたことは、「医療」と「観光」の両面を特区として取り組んでいることの成果の一つと言える。海外からの患者は単独ではなく家族や複数人で来院する事が多いとのことであるが、引き続きこうした随行者の滞在中のサービス提供を分野横断的に実施する体制づくりに取り組んでもらいたい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.0

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4+3.9+4 \times 2) / 4 = 4$

4.0

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5~1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。